

〔成果情報名〕 電照処理による奈良県育成小ギク品種「春日 W3」および「春日 Y2」の作期拡大

〔要約〕 盆出荷用品種「春日 W3」は、定植直後から 7 月上旬まで電照処理をすることで約 3 週間開花を抑制でき、電照による作期拡大が可能である。一方、「春日 Y2」は、開花は抑制できるが、頂花が座止して商品性が低下するため、同作型には不適である。

〔キーワード〕 開花調節、暗期中断、到花日数、花房型

〔担当〕 栽培・流通科

〔分類〕 普及・行政・教育の参考となる技術情報

〔背景・目的〕

奈良県内の小ギク産地では、8 月盆出荷作型において、高需要期の安定出荷を目的とした電照抑制栽培の導入が進んでいる。近年は盆以降も一定の需要があるが、8 月中下旬は季咲き栽培で品種数が少なく、出荷量は安定していない。そこで、県育成 8 月盆用品種「春日 W3」および「春日 Y2」の電照抑制栽培への適性を明らかにして作期拡大を図る。

〔成果の内容・特徴〕

1. 「春日 W3」は、4 月下旬に定植し、定植後から電照を開始し、7 月 5 日に消灯することで 8 月中旬出荷が可能である（表 1、図 1）。消灯後の到花日数は 38 日で、7 月中下旬に開花する無電照の場合に比べて約 3 週間、収穫を遅らせることができる。
2. 「春日 W3」の花房型は電照処理の有無に関わらず約 9 割が頂点咲きとなり、電照処理が花房型に及ぼす影響は小さい（図 2、3）。切り花長および節数は増加するが、調整重および頭花数に無電照との差は認められず（表 1）、盆明け出荷を目的とした電照抑制栽培に適した品種である。
3. 「春日 Y2」は、4 月下旬定植、7 月 5 日消灯で 8 月下旬に開花する（表 1、図 1）。無電照に比べて約 1 か月収穫を遅らせることができ、消灯後の到花日数は 51 日である。
4. 「春日 Y2」の花房型は、無電照ではⅠもしくはⅢであるが、電照処理では約 6 割がⅣである（図 2、3）。頂花の座止により、二次側蕾が発達して頭花数は増加するが、側枝の伸長が著しいため商品性は低く（図 4）、電照抑制栽培には不適である。

〔成果の活用面・留意点〕

1. 本成果は、白熱電球（電照用電球みのり、60W、パナソニック（株）製）を地表から 1.5m の高さに設置し、地表での照度 70～120lx（放射照度 0.47～0.57W/m²）で定植後から 5 時間の暗期中断（22:00～3:00）を行った条件で得られた結果である。
2. 到花日数は、消灯時期や花芽発達期の気温により変動する可能性がある。
3. 圃場で電照処理を行う場合には、用いる電球や設置方法により効果が異なる可能性があるため、農林（農業）振興事務所の指導を受けて取り組むことが望ましい。

[具体的データ]

表 1 電照処理が収穫日および切り花品質に及ぼす影響

品種	電照 ^z 処理	収穫日±SD (月/日) (日)	開花抑制 日数 (日)	消灯後 到花日数 (日)	切り花長 (cm)	調整重 ^y (g)	節数 (節)	頭花数 (個)
春日W3	—	7/19 ± 1			70	36	36	18
	+	8/11 ± 2 ** ^x	23	38	98 **	37 n.s.	40 **	17 n.s.
春日Y2	—	7/21 ± 2			59	38	28	18
	+	8/24 ± 1 **	34	51	101 **	44 n.s.	48 **	27 **

^z 電照期間:2025 年 4 月 25 日~7 月 5 日

^y 切り花長 70cm に調整後、下部 15cm を脱葉して測定。切り花長が 70cm に満たない場合は脱葉のみを行い測定した。

^x 電照無処理区との t 検定により、**は 1%水準で有意差あり、n.s.は有意差なしを示す(n=6)。

耕種概要: 挿し芽:2025 年 4 月 5 日、定植:4 月 25 日、摘心:5 月 2 日、整枝:6 月 13 日

栽培にはプランター(幅 60×18cm、高さ 20cm)を用い、培地にはピートモス、パーライト、パーミキュライトの等量混合(v/v)にエコロング 413-140 3g/L と苦土石灰 2g/L を加えたものを用いた。1 プランターあたり4株を定植し、1 株あたり 3 本に整枝した。

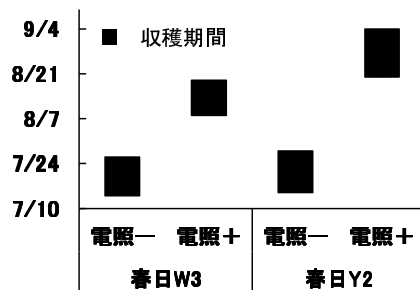


図 1 電照処理が収穫期間に及ぼす影響

処理区の全茎の収穫期間(n=68~72)

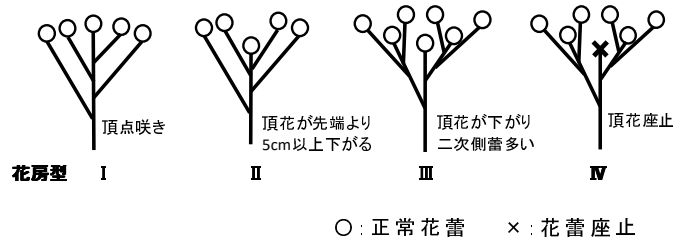


図 2 花房型の模式図

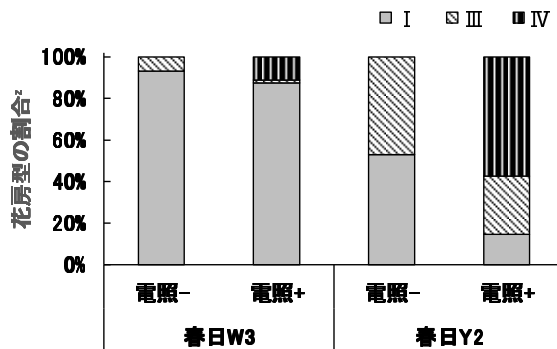


図 3 電照処理が花房型に及ぼす影響

^z 花房型は図 2 により分類した(n=68~72)



図 4 電照処理区で生じた花房型Ⅳの外観

「春日 Y2」

2025 年 8 月 29 日撮影

[その他]

研究課題名: 需要期に安定して開花する小ギクの新品種育成

予算区分・研究期間: 県単 (2025年度)

研究担当者: 虎太有里、辻本直樹、武田偉吹

発表誌等: